

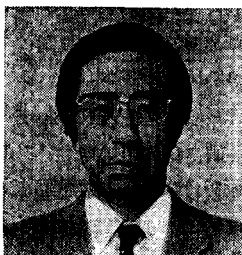
新フェローの紹介

青沼 龍雄 (あおぬま たつお) 氏

昭和8年8月17日生れ

〔現住所〕 神戸市須磨区2
丁目1-23-503

〔学歴〕 昭和33年3月 東京工業大学大学院理工学研究
科修士課程(数学専攻)修了
平成元年1月 工学博士(東京工業大学)



〔職歴〕 昭和33年4月 三菱石油㈱ 入社
昭和38年4月 神戸商科大学講師 商経学部管理科学科
昭和40年4月 神戸商科大学助教授 同上
昭和45年4月 神戸商科大学教授 同上
昭和63年4月 (兼)附属情報処理教育センター長, 現在に至る。

〔OR学会関係〕 理事(無任所)昭和55~56年度, 評議員 昭和45~64年度・平成2~現在, 編集委員 昭和59~62年度, 長期計画委員 昭和56年度, 研究部会主査(数理計画法・関西)昭和57~58年度, 関西支部運営委員 昭和45~48・53~54・58~61年度, 副支部長 昭和62~63年度, 支部長 平成元~2年度

〔著書等〕 階層数理計画プロセス論(商大叢書31, 1988), GINOによるモデリングと最適化(共訳, 共立出版1989), 大規模システム(共著, 昭晃堂, 1986), 数理計画法(共著, 筑摩書房1974), シミュレーションの基礎(共訳, 培風館, 1981)ほか著書9冊, 論文38編, 講演・口頭発表多数。

青沼氏は, 石油産業においてORワーカーとしてご活躍の後, 大学に移られORの研究・教育にあたってこられました。同氏の主な専門分野は, 数理計画モデルの階層的分解と調整の理論, 数理計画を用いた計画組織の構造分析, 数理計画モデルやシミュレーションの生産計画への応用, コンピュータによる経営計画システムの設計など, ORを中心とした実践的な経営科学であります。また, 長年にわたり本学会の運営にも理事, 評議員, 委員をつとめられるとともに, 関西支部のためには運営委

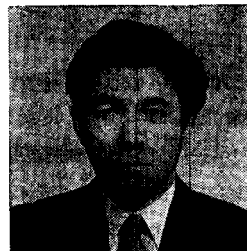
員, 副支部長, 支部長として多大のご貢献をいただいております。

岩本 誠一 (いわもと せいいち) 氏

昭和20年8月15日生れ

〔現住所〕 福岡市東区香椎
駅東4-23-6

〔学歴〕 昭和43年3月 九州大学理学部数学科卒業, 昭和45年3月 同大学院理学研究科修士課程数学専攻修了理学博士



〔職歴〕 昭和45年 味の素㈱ 中央研究所入社
昭和46年 福岡大学講師 理学部応用数学科
昭和47年 九州大学助手 理学部数学科
昭和51年 九州大学講師
昭和53年 広島大学助教授 総合科学部情報行動基礎研究
昭和56年 九州大学助教授 経済学部経済工学科
昭和62年 九州大学教授, 現在に至る。

〔OR学会関係〕 第6回文献賞受賞 昭和53年, 研究部会幹事 昭和56~57・61~63年度, 九州支部運営委員 昭和62~63年度, 同支部副支部長 平成元~現在, JORSJ Associate Editor 昭和62~現在

〔著書等〕 Wilks: 数理統計1・2(共訳, 東京図書, 1971, 1972), Hoel, Port & Stone: 確率過程入門(訳, 東京図書, 1974), 数学序論(共著, 学術図書, 1977), 動的計画論(単著, 九大出版, 1987), 論文72編, 講演・口頭発表88件。

岩本氏は, 動的計画を中心にすえて最適化問題を多面的・逐次的にとらえる視点から一貫して研究を続けてこられ, R. Bellman のヒューリスティックな動的計画法を“最適化する機械=動的計画”として定式化した上で, 独自のシステム理論を展開しておられます。氏のオリジナルによる動的計画の「逆定理」「反転定理」を, 数理計画における「双対定理」に組み込んだ「最適計画の三面鏡理論」は著書「動的計画論」にまとめられ, 米・仏

の Bellman Continuum でも報告されております。昭和53年、動的計画を一般化した「再帰的計画」における逆定理によって第6回OR学会文献賞を受賞されました。最近は両的計画へと研究を進めておられます。また、本学会には九州支部の役員として、また、論文誌の編集委員として貢献していただいております。

梅沢 豊 (うめざわ ゆたか) 氏

昭和14年7月19日生れ

〔現住所〕 東京都目黒区大橋2-17 RD-14

〔学歴〕 昭和38年3月 東京大学工学部応用物理学科卒業、昭和40年3月 東京大学大学院経済学研究科修士課程修了 経済学修士

〔職歴〕 昭和41年7月 東京大学経済学部助手

昭和45年4月 同助教

平成元年4月 同教授、現在に至る。

〔OR学会関係〕 JORSJ編集委員 昭和51年度、IAOR編集委員 昭和46~53年度、理事(庶務)昭和60~61年度、財政問題検討委員 昭和61~平成2年度、同委員長 昭和62~63年度、OR企業サロン・サブコーディネーター 昭和62年度、同コーディネーター 昭和63~平成2年度、会員増強委員、評議員 昭和62~平成2年度

〔著書等〕 現代意志決定会計(共著、中央経済、1978)、技術革新と企業行動(共著、東京大学出版会、1985)、複数生産物の経済的生産スケジュール：1設備・2生産物・静態的需要の場合(岡本他編『企業行動の分析と課題』所収、日本経済新聞社、1985)、ベイズ統計学とその応用(共著、東京大学出版会、1989)、H. A. サイモン：人間行動のモデル(共訳、同文館、1970)、S・ピア：企業組織の頭脳(共訳、啓明社、1987)、他著書2冊、論文18編、講演・口頭発表47回。

梅沢氏は統計的決定理論、生産・在庫管理論、組織論、情報システム論等の分野の研究において顕著な業績をあげられるとともに、ORの啓蒙普及にも長年指導的役割を果たしてこれ、1989年には本学会普及賞を受賞しておられます。また、長年にわたり、本学会の役員・委員を歴任され、特に、財政問題検討委員会を創設して学会財政の健全化に尽力され、またOR企業サロンのコーディネーターとして学会の賛助会員対象の活動を飛躍

的に発展させるなど、学会運営の諸活動においても、きわめて大きな貢献をしておられます。

ト部 舜一 (うらべ しゅんいち) 氏

大正8年3月30日生れ

〔現住所〕 東京都清瀬市中里4-701-17

〔学歴〕 昭和17年9月 東京大学工学部航空学科機体専修卒業、昭和37年3月 工学博士(東京大学)

〔職歴〕 昭和17年9月 中央航空研究所入所

昭和17年10月 陸軍航空兵応召

昭和19年3月 陸軍航空技術中尉任官 第二陸軍航空技術研究所付

昭和20年12月 鉄道技術研究所(運輸通信省)運輸技官
昭和27年4月 同所(日本国有鉄道)動力車研究室研究員

昭和32年6月 同所運転研究室主任研究員

昭和41年4月 同所運転研究室長

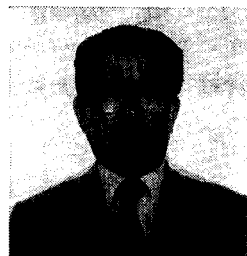
昭和44年3月 日本国有鉄道退職

昭和44年4月 千葉工業大学教授 工業経営学科(数理統計、品質管理、OR、経営工学実習・演習等を担当)
平成元年3月 退職 同大学名誉教授

〔OR学会関係〕 理事(無任所)昭和47~48年度、評議員 昭和45~46年度、組織強化委員長 昭和48年度、研究普及委員 昭和47~49年度、論文誌レフリー 昭和44~63年度、研究部会主査(中小企業のためのOR)昭和48~50年度

〔著書等〕 オペレーションズ・リサーチ(共著、国鉄内部用教科書、1959)、W. フェラー：確率論とその応用I上、下(共訳、紀伊国屋書店、1960、1961)、輸送運搬におけるOR技法(共著、培風館、1964)、品質管理(共著、国鉄内部用教科書、1967)、他に便覧の分担執筆3件、研究論文44編、研究報告類52編、鉄道技研速報等40編。

ト部氏は、わが国のOR導入期からORに着目され、旧鉄道技術研究所において戦後の輸送力増強近代化、列車走行安全対策、通勤輸送改善等を、いち早く手がけられました。たとえば、燃料炭の全国配給網の合理化にLPを適用して提言され、国鉄の経営に多大の貢献をされましたことは、わが国での本格的LP活用の嚆矢といわ



れます。その後、大学において学生に対する実践的なOR・経営工学の幅広い研究指導をされ、さらに遊園地のOR、中小企業（衛星都市製造業、レストラン、スーパーマーケット等）のORの研究と企業に対する経営指導にもあたられました。また、本学会には創立以来参加され、理事、評議員、委員、委員長、部会主査等としてご活躍いただいております。

河合 一（かわい はじめ）氏

昭和21年12月2日生れ

〔現住所〕 鳥取市湖山町南
5丁目222-48

〔学歴〕 昭和48年3月 京
都大学大学院工学研究科博士
課程中退、工学博士

〔職歴〕 昭和48年3月 京
都大学助手 工学部数理工学
科

昭和58年4月 大阪府立大学講師 経済学部経営学科

昭和59年4月 同大学助教授 同学科

昭和62年4月 鳥取大学教授 工学部開発システム工学
科 現在に至る。

〔OR学会関係〕 第12回文献賞受賞 昭和59年
関西支部運営委員 昭和58~61年度

〔著書等〕 信頼性・保全性の数理（共著、朝倉書店、
1982）、信頼性・保全性の基礎数理（共著、日科技連出
版社、1984）、論文34編、口頭発表39件。

河合氏は、信頼性・保全性解析、マルコフ決定過程、
設備更新・保全計画等の分野で長年にわたり活発な研究
活動を続けられており、特に設備システムの保全に関し
て、劣化状態に着目した最適保全計画に顕著な業績をあ
げてされました。これらの内、不完全観測下での最適
発注・取替問題について、実際に有効な分析方法を提
案された論文に対して、第12回OR学会文献賞が贈られ
ました。その後、同氏は経済学、経営学における数理的
側面に関する研究を展開されており、今後の幅広い分野
でのご研究と後進のご指導とともに、本学会の運営にも
ますますのご活躍が期待されております。



反町 洋一（そりまち よういち）氏

昭和8年11月20日生れ

〔現住所〕 横浜市緑区霧ヶ
丘1-16-6

〔学歴〕 昭和35年3月 東
京工業大学大学院理工学研究
科数学専攻修士課程終了

〔職歴〕 昭和35年 三菱原
子力株式会社入社

昭和45年 三菱総合研究所移籍 情報通信部門長 情報
工学部門長を経て現在 取締役高等研究学院院长

〔OR学会関係〕 理事（庶務）昭和51~52年度、評
議員 昭和47~平成元年度、副会長 昭和63~平成元
年度

〔著書等〕 コンピュータ早わかり300（共著、ごま書
房、1981）、他2冊、発表論文7編、口頭発表4件。

反町氏は、企業におけるORの実施に関して多くの役
割を果され、顕著な成果をあげられるとともに、産業界
に対するORの普及にも積極的に活動してこられました。
また本学会の運営にも副会長、理事、評議員、委員と
して参画され、長年多大の貢献をいただいております。



松島 康夫（まつしま やすお）氏

大正13年1月23日生れ

〔現住所〕 東京都国分寺市
東元町4-14-26

〔学歴〕 昭和20年9月 東
北大学理学部物理学科卒業

〔職歴〕 昭和22年9月 商
工省電気通信機械局

昭和26年5月 電気通信技官
電気通信省関東電気通信局

昭和32年12月 日本電信電話公社電気通信研究所 西堀
特別研究室研究主任

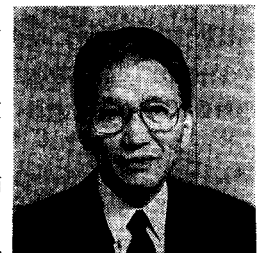
昭和42年2月 同公社本社経営調査室OR担当専門調査
役

昭和55年6月 長岡技術科学大学工学部教授

平成元年4月 長岡短期大学経済学科教授

平成2年4月 同経営情報学科長 現在に至る

〔OR学会関係〕 理事（庶務）昭和42~43年度、理
事（会計）昭和49~50年度、評議員 昭和51~54年度、
予測研究部会幹事 昭和45~47年度。



〔著書等〕 需要の分析と予測(日刊工業, 1959), 需要予測の技術(日刊工業, 1963), 調査計画便覧(共著, 日刊工業, 1963), 仕事に役立つやさしい統計・OR(共著, 電気通信協会, 1968), 経営システムの理論(オーム社, 1971)等6冊, 論文・研究報告等16件

松島氏は、わが国の電気通信事業の戦後復興期の政策立案に参画され、特にその需要の分析・予測に関する研究と実施においていちじるしい業績をあげられるとともに、かたわら、これらの手法の普及面でも活躍してこられました。その後、大学において学生の指導にあたられると同時に、社会システムのSD分析、たとえば長岡テクノポリスのシミュレーション分析、豪雪地域の医療モデル等、地域開発振興についての幅広いORの研究・適用を推進しておられます。また同氏は、日本電信電話公社の本学会への支援活動を担当されるとともに、本学会の運営にも長年多大の貢献をしてこられました。

若山 邦紘 (わかやま くにひろ) 氏

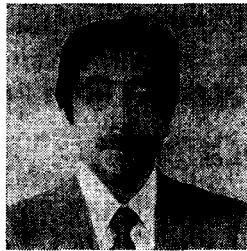
昭和16年1月5日生れ

〔現住所〕 東京都渋谷区東
2-10-16

〔学歴〕 昭和44年3月 慶
応義塾大学大学院工学研究科
管理工学専攻博士課程単位取
得満期退学 工学修士

〔職歴〕 昭和44年 法政大
学専任講師 工学部経営工学科

昭和48年 同大学助教授 同学科



昭和59年 同大学教授 同学科 現在に至る

〔OR学会関係〕 理事(庶務)昭和57~58年度, 理事(国際)昭和62~63年度, JORSJ Associate Editor 昭和55~58年度, OA化委員長 昭和58~現在, 国際委員 昭和59~現在, 財政問題検討委員 昭和61~現在.

〔APORS関係〕 アジア・太平洋地域OR学会連合(APORS) 事務局長 昭和60~現在, APORS Journal (APJOR) Editorial Board 昭和61~現在

〔著書等〕 シミュレーション(共訳, 日本コンピュータ協会, 1974), シミュレーション(共著, 日科技連, 1976), ORワークブック(共著, 日科技連, 1984), オペレーションズ・リサーチ入門4—整数計画法と非線形計画法(共訳, 培風館, 1986), 文科系のコンピュータ/応用編(共著, 岩波書店, 1988), OR事典(分担執筆), ソフトウェア事典(分担執筆), 論文7件, 解説・報文等10件, 講演・口頭発表8件.

若山氏は、シミュレーション、整数計画法等の分野の研究において顕著な業績をあげられるとともに、ORの啓蒙・普及にも指導的役割を果たしてこられました。また、過去20年以上にわたり本学会の運営に尽くされた功績はきわめて大きく、特に国際関係への貢献はいちじるしく、就中1985年にアジア・太平洋地域OR学会連合(APORS)が設立されて以来、今日に至るまで、その事務局長を勤められ、同理事会の運営、ニュース・レターの発行・各国OR学会の主要幹部との交流等を、ほとんど一手に引き受けてこられました。今日、APORS構成10学会間に見られる友好的・協調的關係は、同氏の献身的努力によるところ、きわめて大であります。

× × × × ×